

**自分の生き方について主体的に考え、
行動できる生徒の育成**

～外部講師を活用したがん教育の取組を通して～

伊佐市立大口中央中学校
教諭 椎原 史都

1 はじめに

本校は、生徒数 353 人、特別支援学級 10 学級を含む 19 学級の学校である。学校教育目標を「夢をもち、郷土を愛し、たくましく生きる生徒の育成」と掲げ、生徒のウェルビーイング向上のため、学校・家庭・地域・関係機関等と連携した教育活動に取り組んでいる。

2 生徒の実態

本校の生徒の実態として、素直で明るく元気に過ごす姿が見られる。また、学年関係なく仲の良い様子もうかがえ、他者と協働的に生活することができる。

一方で、様々な場面で消極的な様子が見られ、学習について理解しようとする意欲が低く、学びが深まらなかったり、主体的な行動ができずに、基本的な生活習慣が確立しなかったりすることが課題である。生徒一人一人が自分という人間がどのように在りたいのかを考え、よりよく生きるために、主体的に行動できる生徒の育成が必要だと考える。

3 主題設定の理由

生徒が自分という人間がどのように在りたいのかを考えるにあたり、まずは多様な視点から「よく生きる」とはどういうことかを考える必要がある。がん教育を中心に多様な視点から自他を見つめ、これからの生き方について主体的に考えることができるようになれば、本校生徒の課題の解決に近づくのではないかと考え、主題を設定した。

生き方について考えるにあたり、他者の経験談を聞くことは大変効果的な活動である。

そこで、外部講師を招き、体験談を聞くことを通して、より具体的に生徒が生き方について

考えることができることを目指していく。

4 取組の実際

(1) 事前指導

ア 性に関する学習・・・2年「生命尊重」

2年生においては、外部講師による授業の約1ヶ月前に「生命誕生」をテーマに学年全体で授業を実施した。

テレビ絵本の「いのちのまつり」を視聴後、グループに分かれ、「おむつ交換→洗濯仕事→起き上がり運動→生活動作→掃除仕事」の妊婦体験を実施した。授業の前に、命の尊さについて考えを深めた。

イ いのちの授業（がん教育）の事前授業

授業は、「事前アンケート」→「がんの基本知識の授業」→「がん患者さんに聞きたいことを考える」といった流れで行った。

基本知識の授業では、がんの種類、生活習慣との関連、早期発見・早期治療などについて、「調べてみよう！がんのこと」（鹿児島県保健福祉部健康増進課作成）を活用して授業を行った。生活習慣のみに意識が向かないように、原因不明のものも多く、遺伝によるものもあることも指導した。

(2) いのちの授業（がん教育）

NPO法人がんサポートかごしまから講師を招き、保健体育科の学年全体授業として実施した。「自分らしく生きるためには、どのようなことを意識したらよいだろうか」をテーマに授業を行った。

導入では、講話を聞くための予備知識として、事前授業で確認したがんの基本的な知識を振り返った。その後、講師から「事前アンケートの内容に対する回答」→「旅立った患者さんの話」→「身近に患者さんがいたらどう行動するか」→「命と言葉の大切さ」という内容のお話をいただいた。「旅立った患者さんの話」の際には、既習事項と話の内容との関連を意識させるために、生徒のつぶやきを拾い上げながら、机間指導を行った。

「身近に患者さんがいたらどう行動するか」については、生徒同士で意見交換を行い、考えを深めた。「そっとしておく」や「自分にできるサポートを積極的に行う」、「頼られたときにはサポートする」など、多様な視点からの意見交換が行われ、よく生きることについて学びが深まった場面であった。



【図1 授業の様子】

授業では、ワークシート（図2）を活用することで、自分の内面を見つめさせるとともに、他者の考えに触れ考えを深められるよう配慮した。

1 がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために	2 三好さんの話を聞いて
学習課題 自分らしく生きるためには、どのようなことを意識したらよいたろうか。	
1 がんについて振り返ろう がんとは？ 正常な細胞の遺伝子が傷ついてがん細胞に変化し、そのがん細胞が無秩序に増殖して器官の働きを壊してしまう病気。	3 身近にがんの患者さんがいたら自分ができることは何だろうか。
がんにならないためには？ がんの主な原因は、生活習慣、細菌、ウイルスです。その中でも（ ）は自分で望ましいものに変わります！	
生活習慣以外には何が重要？ 自覚症状がない段階での（ ）が重要！そのために（ ）の受診が大切！	4 今日聞いた話を誰かに伝えよう。

【図2 ワークシート】

いのちの授業を通して、がん患者さんの生き方に触れ、これからの自分の生活に生かせることについて考えることができた。

- ・生きることは当たり前でないことを意識して生きたい。
- ・前向きに自分がしたいことに挑戦し続けたい。
- ・個性を大切にする。
- ・力強く生きたい。
- ・おもしろく生きたい。
- ・恥のない生き方で生きたい。

【自分らしく生きることに関する生徒の記述】

(3) 事後指導

いのちの授業後、最初の保健体育の時間の前半に、講師に手紙を書き、その後、自分が書いたワークシートの内容を見返し、周囲と

もう一度意見交換を行う場を設定した。

後半は、1・2年次の保健分野で学習した「心身の発達と心の健康」と「健康な生活と病気の予防」の内容に触れつつ、自分らしく生きることについて問いかけた。

- ・私の周囲に困っている人がいたら、話し相手になったり、そばにいたりしたいと思いました。
- ・友達がちゃかさずに、思いやりを持って生きたいです。
- ・自分や友達が疲れているときこそ、おもしろくしたいと思いました。
- ・亡くなってしまった人や病気の人に恥じない生き方で生きたいと思いました。
- ・何かをがんばろうとしているなら、悲観せずに生きたいです。
- ・無理をせずに、時には休みつつ自分のペースで生きたいです。

【生徒の講師への手紙の内容】

5 成果と課題

(1) 成果

- ア 生徒ががん患者さんの思いや考え方に多面的・多角的に触れることで、自分らしさについて深い理解をすることができた。
- イ 外部講師を活用することで、教師が生徒に伝えづらい感情に関することも指導することができ、生徒の深い学びにつながった。

(2) 課題

- ア 知識があることが前提となる部分もあるため、事前授業から外部講師等と連携できるとよいが、時間の確保が必要である。
- イ 学校全体としてがん教育を、さらに推進するため、校内研修等を計画的に実施する必要がある。

6 おわりに

学校における様々な場面で学ぶことを関連させて、生き方について考えることは、自分らしく生きるための土台を作ることにつながる。

そのため、教科横断的な視点をもちつつ、日頃の教育活動にあたることが重要であると考え

る。今後がん教育を充実させ、学校・家庭・地域・関係機関等が連携し、生徒が命の大切さを理解し、よりよく生きるために主体的に行動できるように取り組んでいきたい。